

Hymenoptera's 100 million years — Their Sharp Shape and Sophisticated Life Style —

ハチたちの1億年

第30回 企画展

みがきぬかれた 姿と生活

くらし



スズバチ 撮影：小川 宏氏
Oreumenes decoratus

2004年 3月13日(土) ▶ 6月13日(日)

3月13日(土)は午後1時から一般公開となります。

■ 記念イベント

- ・自然教室「竹筒トラップで自由研究しよう」
2回シリーズ ～ハチはなぜ穴に巣をつくるか～
4月24日(土)・8月28日(土)
- ・自然講座「アリはハチから進化した?!」
4月25日(日) 講師：寺山 守氏(東京大学講師)
- ・自然講座「フェアブルとハチ」
5月1日(土) 13時30分～
講師：奥本大三郎氏(埼玉大学教授)
・山根爽一氏(茨城大学教授)
- ・おはなしと音楽の夕べ「心に響くフェアブルの世界」
6月5日(土) 18時00分～
講師：飯島晶子氏(ナレーター/朗読の会「驢馬の耳」主宰)
※上記イベントは全て事前申込み制となっております。

■ 開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■ 休館日

毎週月曜日(但し5月3日(月)～5日(水)は開館し、翌5月6日(木)が休館となります。)

■ 入館料

- ・大人 720円(580円)
- ・高・大学生 440円(300円)
- ・小・中学生 140円(70円)
- * ()内は20名以上の団体料金です。
- * 昭和13年4月1日以前に生まれた方。
- * 障害者手帳をお持ちの方、未就学児は入館無料です。
- * この料金には、本館内常設展・野外施設入館料が含まれています。
- * 毎週土曜日は、小・中・高校生は入館無料です。(但し、春休み期間中を除きます。)
- * 3月20日(土)、4月29日(木)、6月5日(土)は、入館無料です。

■ 共催 / NHK 水戸放送局
■ 後援 / ミュージアムパーク 茨城県自然博物館友の会

次回企画展のお知らせ

開館10周年記念
恐竜たちの足音が聞こえる
—中国大陸そして日本—
2004年7月17日(土)～11月14日(日)



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地 TEL 0297-38-2000
ホームページアドレス <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

ハチたちの1億年

第30回 企画展

みがきぬかれた 姿と生活

多くの人は、「ハチは“刺す”ので悪い虫だ!」と思っているのではないのでしょうか。実は、“刺す”ハチはごく一部のグループで、しかもメスしか刺さない事実を知っている人は、ほんのわずかです。この企画展では、ハチたちのみがきぬかれた姿と生活について紹介していきます。知られざる「ハチの世界」へようこそ!

ハチの出現

最古のハチ化石は、中生代三畳紀の中期(約2.2億年前)のもので、ジュラ紀初期(約1.8億年前)には、腹部と胸部の間にくびれがないキバチやハバチなどが現われました。およそ1億年前の白亜紀にハチの一大放散(同類の生物が、様々の環境条件に適応して進化し、多様に分化すること)が見られ、新生代(約5500万年前)には、寄生バチやスズメバチ、ミツバチといった腹部がくびれたハチのなかまが出そろいました。



琥珀の中のハチ化石



スズバチの巣に産卵するオオセイボウ(大青蜂)。ハチの毒針は、産卵管が変化したものです。しかし、オオセイボウの産卵管は、毒針に変化していないので、人を刺すことはありません。

とぎすまされた姿

花バチや狩バチは、よく飛んで採餌するので、昆虫界きっての飛行家といえるでしょう。とぎすまされたハチの姿を代表する体の特徴の一つは、発達した4枚の翅です。「膜」という意味のhymenoと、「翼」という意味のpteronから、ハチ目の学名が“Hymenoptera”と名付けられました。

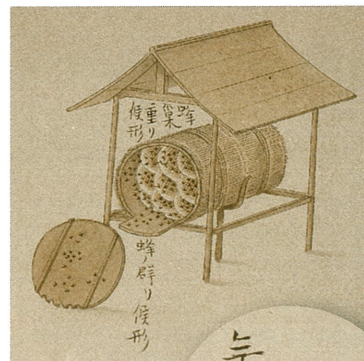
多様な生活

ハチは、幼虫が植物や葉や茎などを食べるハバチやキバチ、他の昆虫などに産卵して孵化した幼虫がそれを食べて育つ寄生バチ、メスバチが他の昆虫やクモなどを捕らえて巣に運び幼虫を育てる狩バチ、そして幼虫のために花粉と蜜を集める花バチなどに分けられます。さらに、単独で子育てを行う種から、様々なレベルの社会生活をする種まであり、幼虫の食習性と組み合わせると、非常に多様な生態の持ち主であることが分かります。

レンガを訪れるセイヨウミツバチ、社会生活をするグループです。

ハチと人との関係

日本語では人と深い関わりを持つものほど、短い単語で現されています。昆虫を探すと、カ、ガ、ハチ、アリ、セミ、ハエ、ノミ…、などがあります。古代においては、これらの昆虫が生活の中に深く入り込んでいたに違いありません。ハチは「針刺す」の音が転じたものだとされています。



江戸時代の二ホンミツバチの養蜂。ミツバチは人と深く関わってきたハチです。



交通案内

- 車利用の場合
 - ・常磐自動車道谷和原I.Cから20分
 - ・古河方面から境町経由50分
 - ・下館方面から下妻市経由1時間10分
 - ・土浦方面から水海道市経由1時間
- 鉄道・バス利用の場合
 - ・東武野田線愛宕駅から茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車→「自然博物館入口」下車→徒歩10分
 - ・関東鉄道常総線水海道駅から関東鉄道バス「岩井車庫行き」又は「岩井西高行き」乗車→「辺田三叉路」下車、茨城急行バス「野田市駅行き」に乗り換え→「自然博物館入口」下車→徒歩10分
 - ・東京駅八重洲口から高速バス「岩井行き」乗車→「大根根カントリー入口」下車→茨城急行バス「野田市駅行き」に乗り換え→「自然博物館入口」下車→徒歩10分

*ペット及び玩具等の持ち込みはご遠慮下さい。

主な展示物

- ◆ハチの出現
 - ハチ入り琥珀、山口県美弥産化石
- ◆とぎすまされた姿
 - 刺さない蜂(ハバチ、キバチ)、美しい蜂たち(セイボウ)、集団の力(アリ)、蜘蛛狩蜂(ベッコウバチ)、スレンダーな狩人(アナバチ)、泥細工の芸術家(ドロバチ)最強の昆虫軍団(スズメバチ)、Carpenter bees(クマバチ)家畜昆虫(ミツバチ)
- ◆多様な生活
 - 北海道・沖縄・世界のハチ、ハチの体のしくみ、いろいろなハチの巣、擬態・警告色、コミュニケーションの方法、刺すしくみ、社会性昆虫
- ◆ハチと人との関係
 - 養蜂業、ハチと農業、食べ物としてのハチ、ファールから仮面ライダーまで